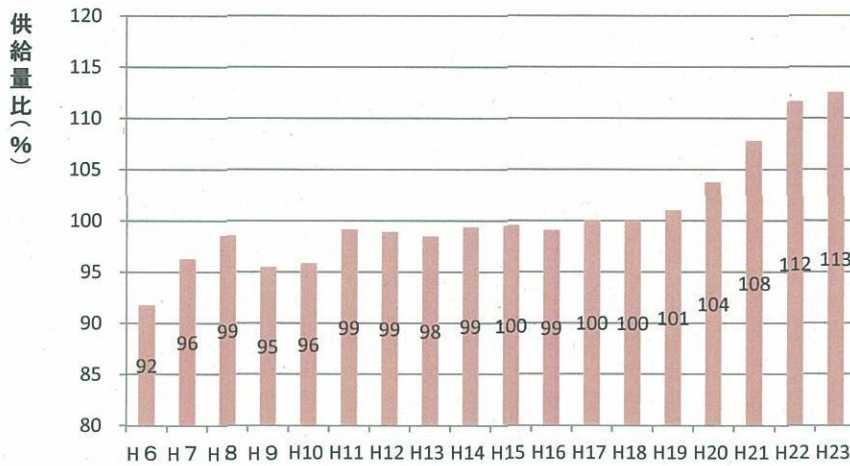
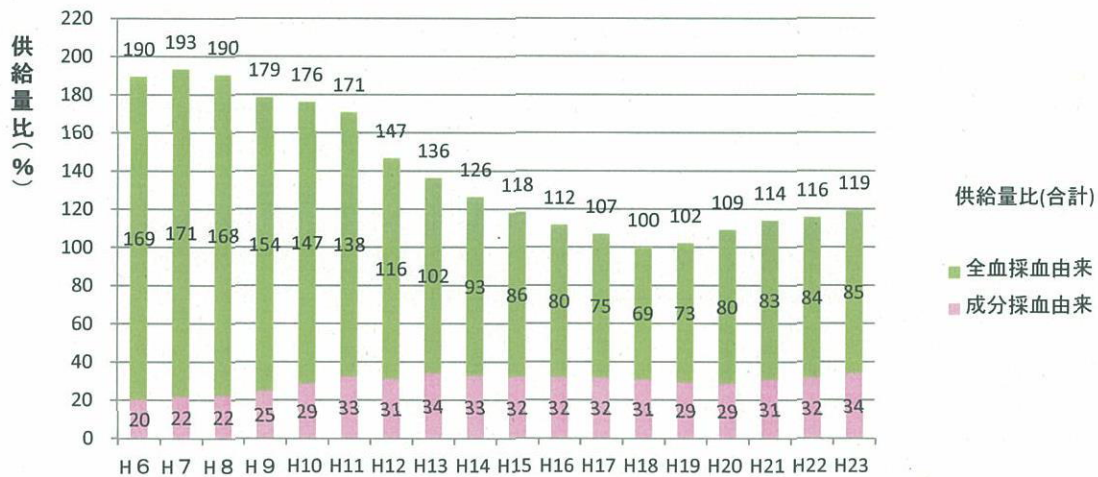


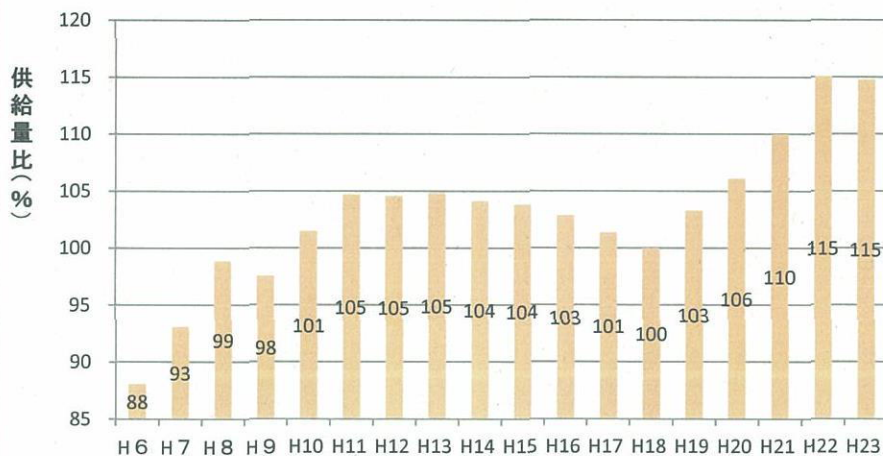
赤血球製剤(RC)の供給量比(平成6年～平成23年)  
(平成18年の供給量を100%とする)



新鮮凍結血漿(FFP)の供給量比(平成6年～平成23年)  
(平成18年の供給量を100%とする)



血小板製剤(PC)の供給量比(平成6年～平成23年)  
(平成18年の供給量を100%とする)



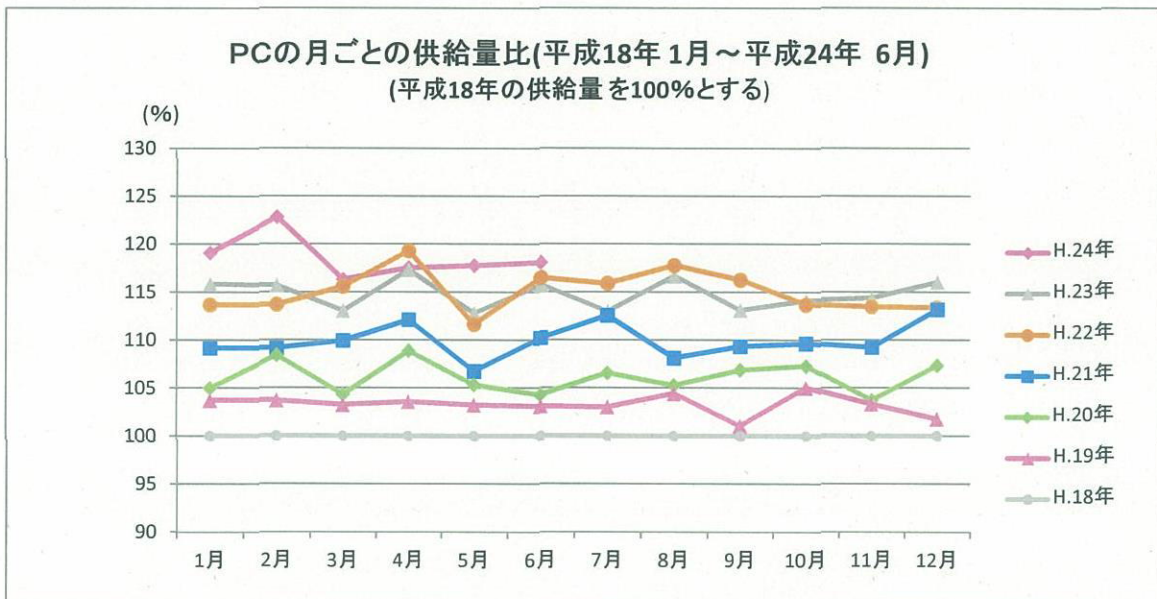
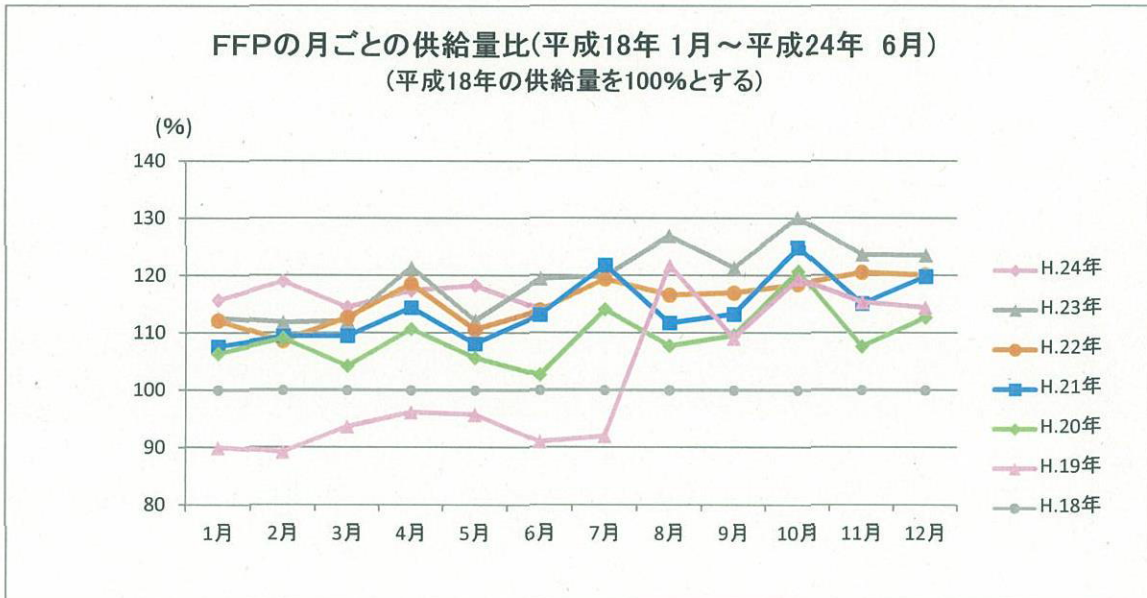
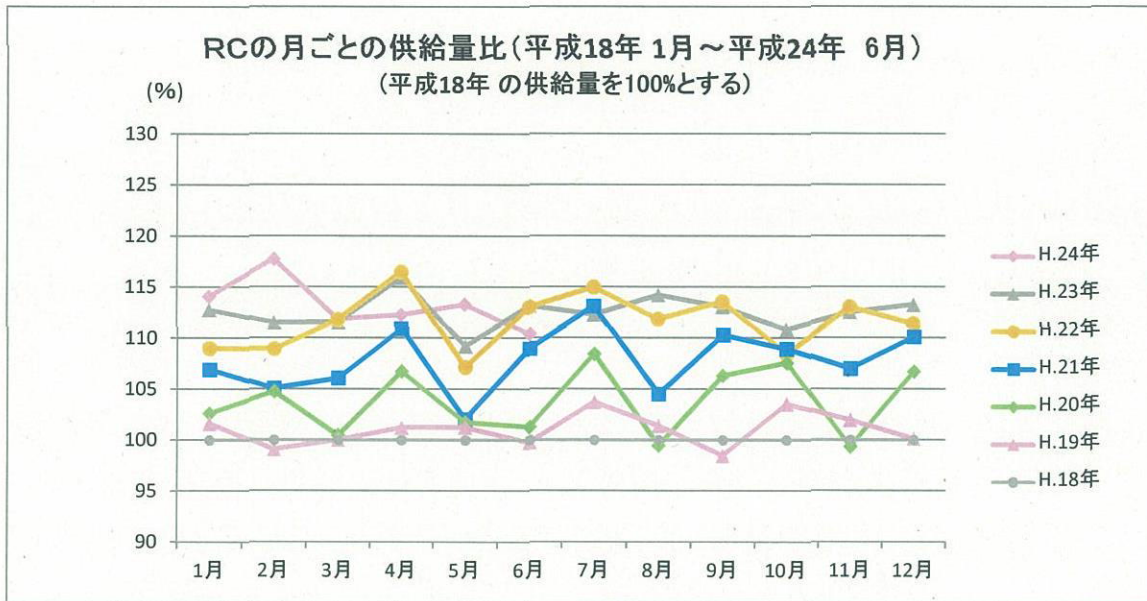
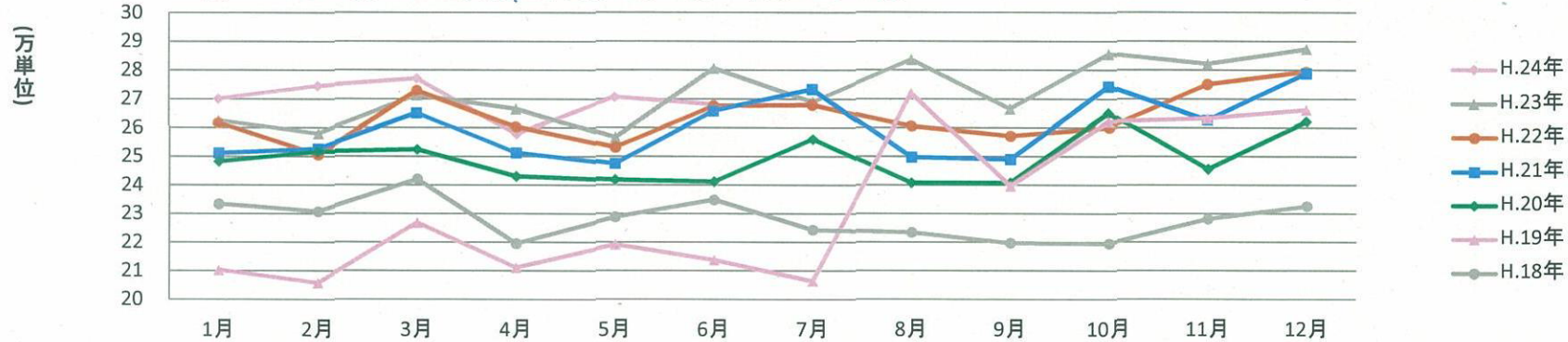


図1 FFPの月ごとの供給量(平成18年1月～平成24年6月)



全血由来FFPは80 mLを1単位(FFP-LR-1:1.5単位、FFP-LR-2:3単位)、成分採血FFPは90 mLを1単位(FFP-LR-Ap:5単位)とした。

平成18年1月から平成24年6月までの、新鮮凍結血漿(FFP)の月ごとの供給量(単位)を「図1」に示した。

平成19年1月16日採血分の全血から、保存前白血球除去を実施して、容量がそれまでの新鮮凍結血漿の1.5倍になった新鮮凍結血漿-LR(FFP-LR)を製造し、6カ月間の貯留保管を行って、平成19年8月から供給が開始された。

平成19年の供給量は、7月まで平成18年同月を下回っていたが、8月は大きく増加した。平成19年9月以降の供給量は、おおむね前年同月を上回り、年次供給量は前年を上回っている。

図2 FFPの供給本数(平成18年～平成23年)

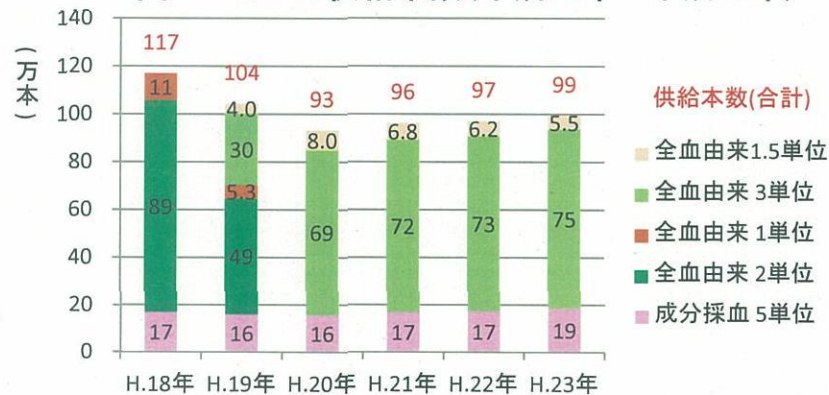
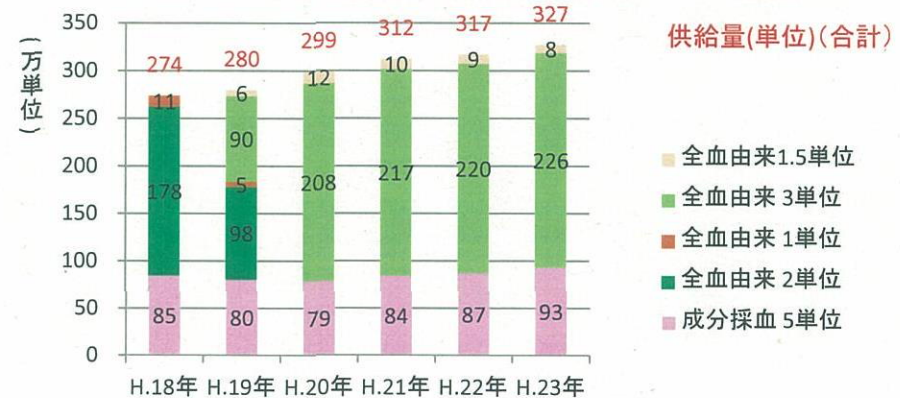


図3 FFPの供給量(単位)(平成18年～平成23年)



FFPの平成18年から平成23年までの、年次供給本数を「図2」、供給量(単位)を「図3」に示した。

年次供給本数は、FFP-LRの供給及び切替えにより、平成19年、平成20年では減少し、平成21年以降は増加している。

年次供給量(単位)は、平成8年から平成18年まで、前年供給量からの減少が続いていたが、平成19年以降は増加している。